

誰もがSDGsを使いこなす時代へ

SDGsを 共通言語として 一人ひとりが 社会を変革する

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。

2030年に向けて、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、

国連加盟193か国が掲げた17の目標と、

それらを達成するための169の具体的なターゲットを設定しています。

その目標内容は、貧困や飢餓、健康や安全、

さらにはエネルギー問題や経済成長にまで言及されており、

世界各国が一丸となって取り組むべき課題といえます。

東京青年会議所5月例会「SDGsで未来を描こう」では、SDGsが採択された理由、

さらには17の目標に取り組むことの本当のメリットなど、

一人ひとりがSDGsを使いこなし、社会に働きかける方法論について学びました。

2019年5月22日、千代田区外神田「神田明神ホール」にて、外務省後援のもと、東京青年会議所5月例会「SDGsで未来を描こう」を開催しました。講演、ワークショップを含んだ3部構成で行われた本会では、約522名もの方にお越しいただき、盛況にて終了しました。



SDGsは一人ひとりが 変革者となるためのツールである

第一部では株式会社博報堂DYホールディングス CSRグループ推進担当部長 川廷昌弘氏にご登壇いただき「SDGsで自分を変える、未来が変わる」というテーマで講演いただきました。

川廷氏のお話によると、SDGsは国連の未来に関する決議の集大成であると同時に、私たち一人ひとりがゴールを目指すための共通言語であるといえます。講演

内ではさまざまな取り組み事例が紹介され、最後は「SDGsの17つのゴールはテーマでもある。そして、169のターゲットはシナリオである。それを自分たちの物語として置き換えることで、誰もが変革者になれる」と締めくくられました。SDGsへの理解が深まるとともに、聴衆は言葉を書き留めたり、資料を写真に残したりと一人ひとりの心に響く内容となりました。



社会事象や自然事象を 自分と関連付けて考える

朝日新聞東京本社CSR推進部 遊佐美恵子氏にご登壇いただいた第二部。「新聞で身近なことを世界につなげる」をテーマにお話いただき、紙面を参照しながら、世界の問題がいかに関わっているかについて語っていただきました。

講演中のワークショップでは、配布された記事を元に、世の中で起こっている事象を多面的に読み解き、SDGs17目標のどれに該当するかを考えるというグループワークを行いました。アイデアを書き留めたり、人と話したりすることで思考がクリアになり、自分たちが次にどのようなアクションを起こすべきかが明確になりました。

「SDGs×行政」で 企業と市民の行動を変える

神奈川県理事いのち・SDGs担当 山口健太郎氏による講演が行われた第三部では、企業や地域学校での事例紹介を中心とした「神奈川県でのSDGsへの取り組み」というテーマで展開されました。改めて市民がSDGsに取り組むメリットを訴求し、行政と地域がパートナーシップを組んで行動に移すことの大切さが理解できました。

最後に登壇した東京青年会議所第70代理事長塩澤君の謝辞では、「SDGsという共通認識をコミュニケーションツールとして活用し、大きな輪を作って活動を推進していきたい」という思いを表明。東京青年会議所は今後も、すべての市民がSDGs達成に関わり、東京が「未来への投資が世界で最も多い都市」となることを目指していきます。

